



WWFジャパン スクール・パリ

ADP2.8の報告 およびこれからの交渉

WWFジャパン
気候変動・エネルギーグループ
山岸 尚之

2015年3月6日（金）



ADP2.8

－ 簡単な報告







何が話し合われたのか？

■ 交渉の主役

- 「要素」 ペーパー → 「交渉テキスト」

■ 前半：意見の着実な反映

- 掲載されていない意見はないかの確認

■ 後半：簡素化（Streamlining）

- 明らかに重なっている選択肢をまとめることなどが試みられた

■ INDCに関するうわさ話

- メキシコ / AILAC

代表的論点

- 交渉テキストにおける現状



交渉テキストの外の論点

■ 法的性質

- 議定書？
- 法的拘束力の意味は？

■ 合意に入るもの／COP決定に入るもの

- 重要さの違いではない？



「差異化」をめぐる論点

削減目標の形式

(e.g. 総量か原単位か、BAU比か、基準年比か)

削減目標の性質・義務

(e.g. 国によって義務かどうか違う？LDCは？)

削減目標に支援有無条件をつけるか？

(e.g. ここまでは独力で、ここからは支援があれば)

サイクル

(e.g. 先進国・途上国で分ける？それとも？)

資金支援の義務・規模

(e.g. 誰がどれくらいの資金支援をするのか)

差異化

長期目標

(e.g. ピークの時期が違う？)

適応の扱い

(e.g. 途上国は適応行動計画だけでもよい？)

遵守における扱い

(e.g. 遵守制度の対象となるのは？)



「先進国 (developed countries ; Annex I Parties)」と
「途上国 (developing countries ; Non-Annex I Parties)」
という言葉は使い続けるのか？



緩和：長期目標

論点

- 「一般（General）」の章との重複あり
 - ・ 条約第2条以外に何か加えるのか（例：第4条への言及）
 - ・ 気温上昇目標
- 削減目標＋ α
 - ・ 2050年までの脱炭素化
 - ・ 「ネット」での2050年／2100年まで
 - ・ 濃度安定化目標

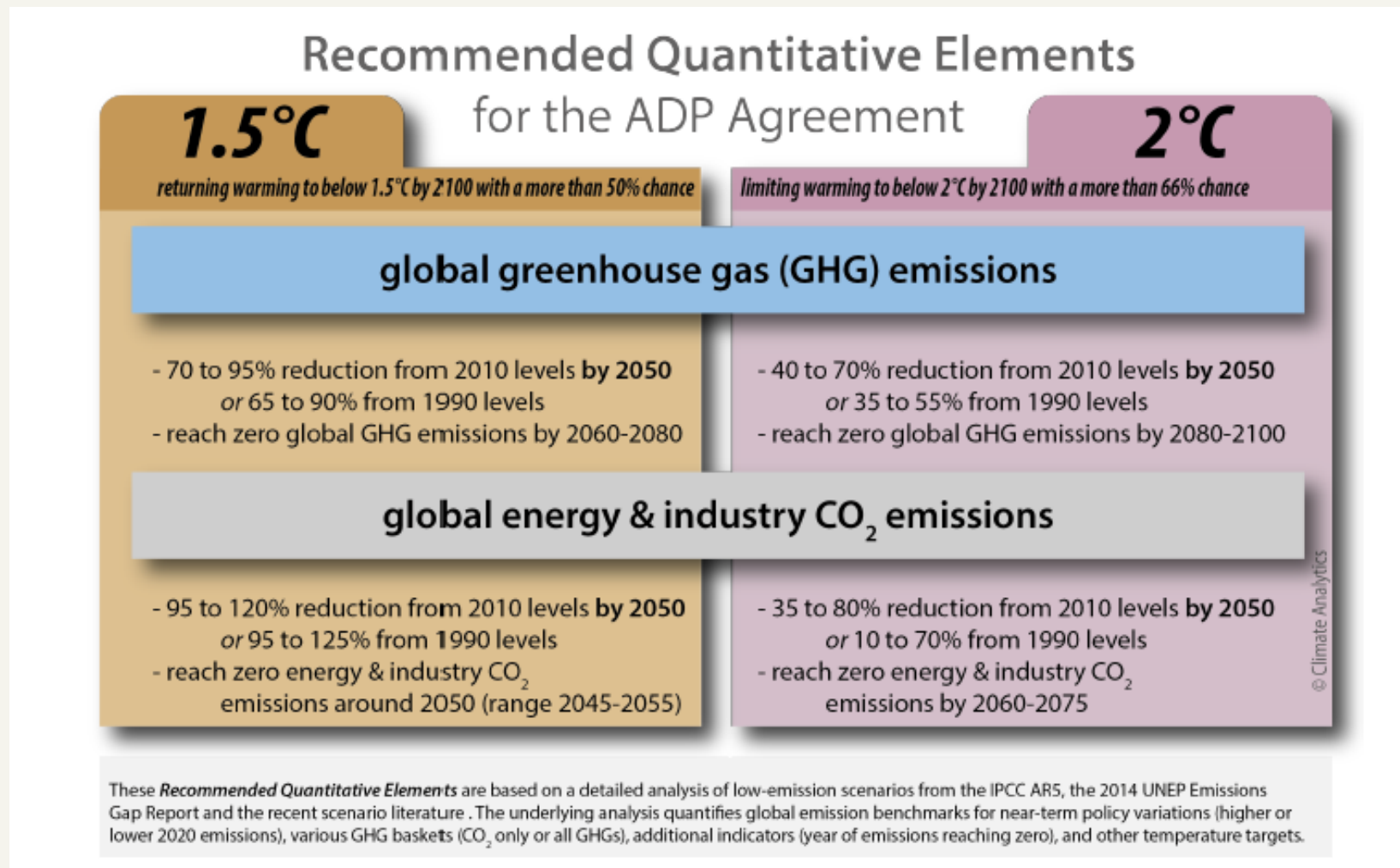
各国の立場 ※網羅的ではない

- ◇ マーシャル諸島、グレナダなど：2050年までの脱炭素化支持 / 1.5°C
- ◇ ノルウェー：ネットでの2050年
- ◇ ニュージーランド：ネットでの2100年

交渉テキスト：第13～14段落



参考：1.5°C/2°C未満のために必要な長期目標



(出所) Rojeri, *et al.* (2015) Info sheet: Timetables for Zero Emissions and 2050 Emissions Reductions: State of the Science of the ADP Agreement. Climate Analytics.



適応：目標設定

論点解説

- 緩和との同等性（parity）の確保
 - ・ 緩和の位置づけ底上げ
- グローバル目標、国内目標
 - ・ 国際的目標にして国内での位置づけを上げたいという意図も

各国の立場 ※網羅的ではない

- ◇ アフリカ諸国：適応に関するグローバル目標の設定を主張
- ◇ AILAC：MRVやサイクルのタイミングは違っても、国別に目標を作るべき
- ◇ 島嶼国：できるかどうかに不安

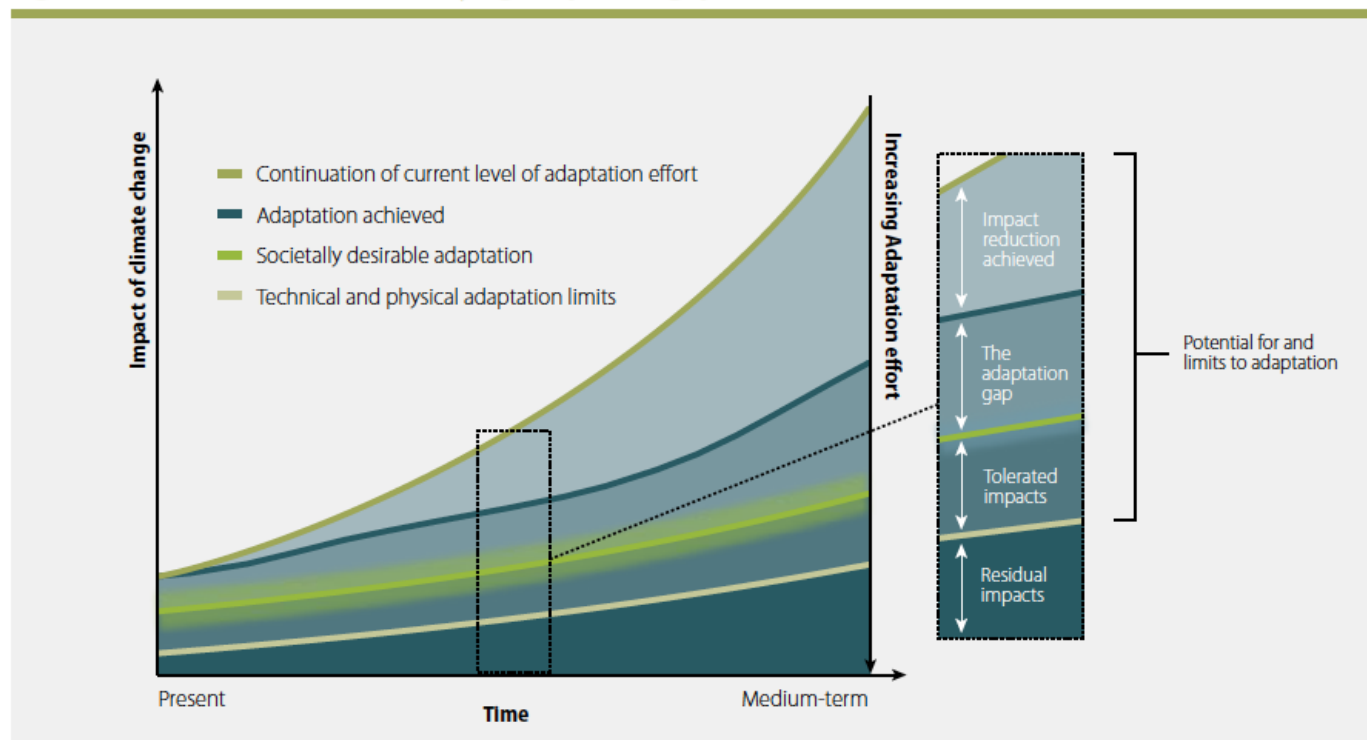
交渉テキスト：第50段落（グローバル目標）、第51～56段落（国別目標）



参考：適応目標につながる？議論

UNEPは、適応ギャップを「資金のギャップ」「技術のギャップ」「知見のギャップ」という3つのギャップに分解して整理しようという試みを始めている。

Figure 2.2: A framework for identifying adaptation gaps



Source: Authors. See text for an explanation.

(出所) UNEP. (2014) *The Adaptation Gap Report: A Preliminary Assessment*. UNEP.



損失と被害

論点

- そもそも項目として設けるか
 - ・ 「適応」の一分野か、独立した分野か

各国の立場 ※網羅的ではない

- ◇ 島嶼国：適応から独立した項目として
- ◇ 先進国：特に「補償」につながる議論は受け入れられない

交渉テキスト：第68～78段落



資金：具体的な目標のあり方

論点

- グローバルな目標、先進国（+α）全体目標、個別国目標
 - ・ パリ合意や国別目標の中に、どこまで書けるのか
- 具体的な規模
 - ・ 「2020年1,000億ドル」を超える規模とは
“a floor of USD 100 billion per year”
- 誰が
 - ・ “Parties in a position to do so, considering evolving capabilities”

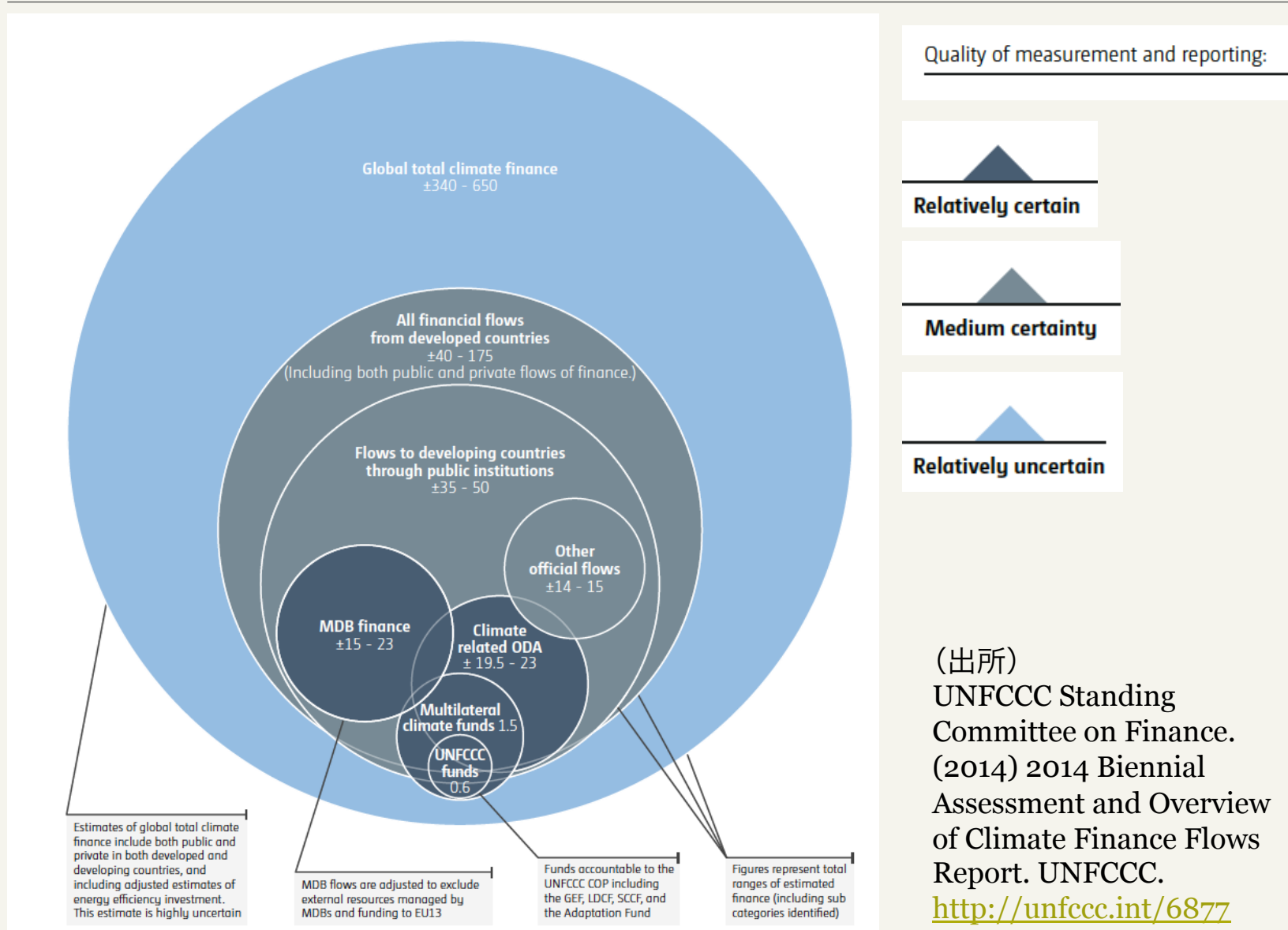
各国の立場 ※網羅的ではない

- ◇ 先進国：数字はかけない
- ◇ 途上国全般：目標を書くべき
- ◇ メキシコなど：先進国中心なれど自らも出す準備はあり

交渉テキスト：第79、82段落（誰が）、第91～102段落（規模）、第103～127段落（パリ合意の中にかかれるべき全体目標と個別目標）



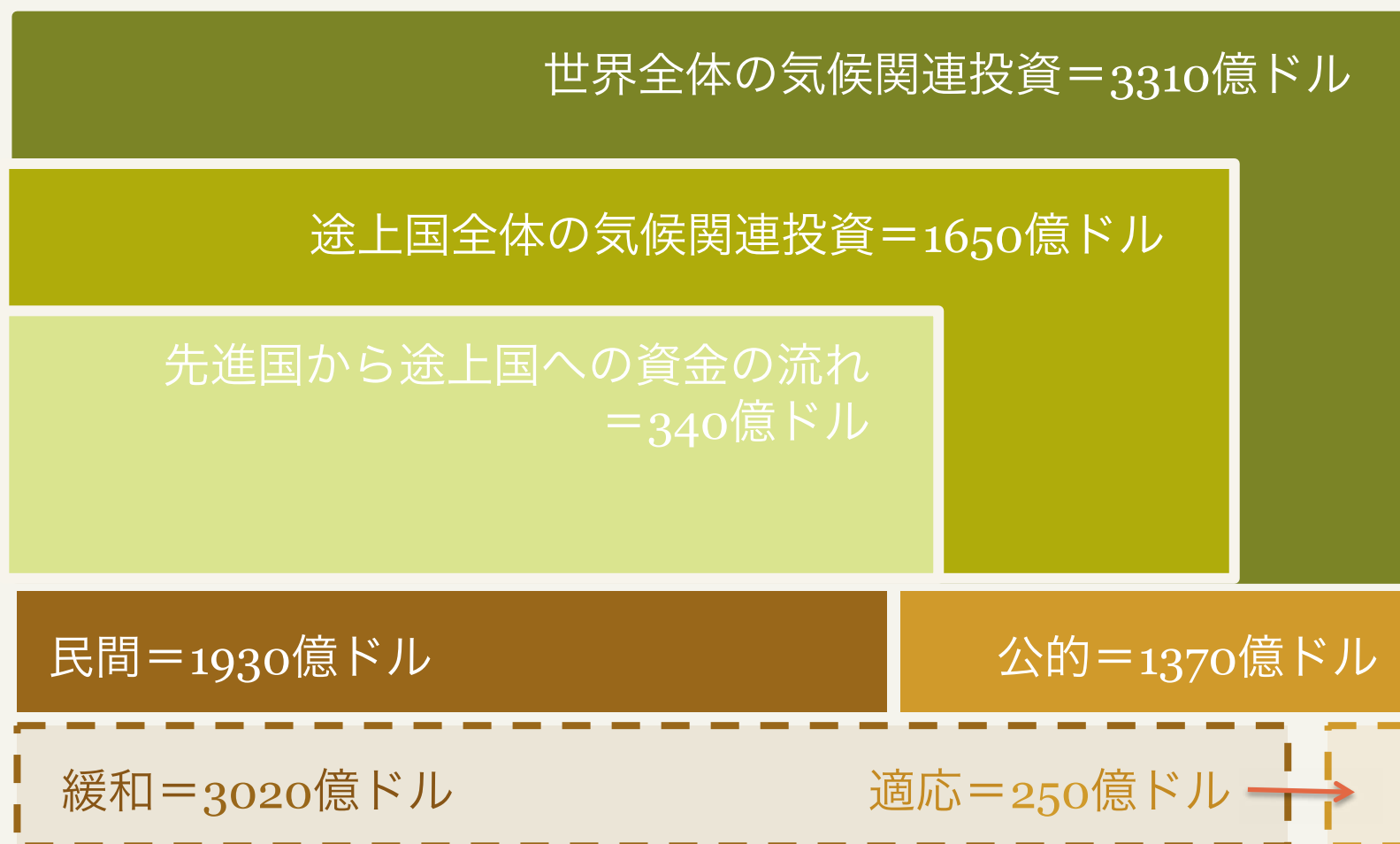
参考：現状の気候資金の規模 1





参考：現状の気候資金の規模 2

2013年に関する試算

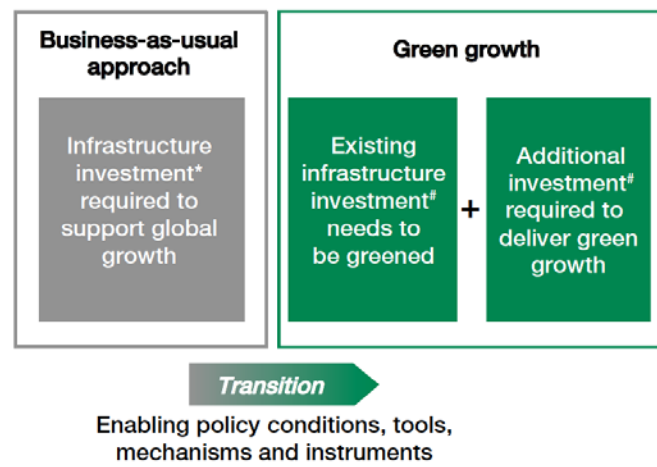


(出所) Climate Policy Initiative (2014) *The Global Landscape of Climate Finance 2014*. Climate Policy Initiative. より作成



参考：2030年にどれくらい必要か

Figure ii: Conceptual assessment framework



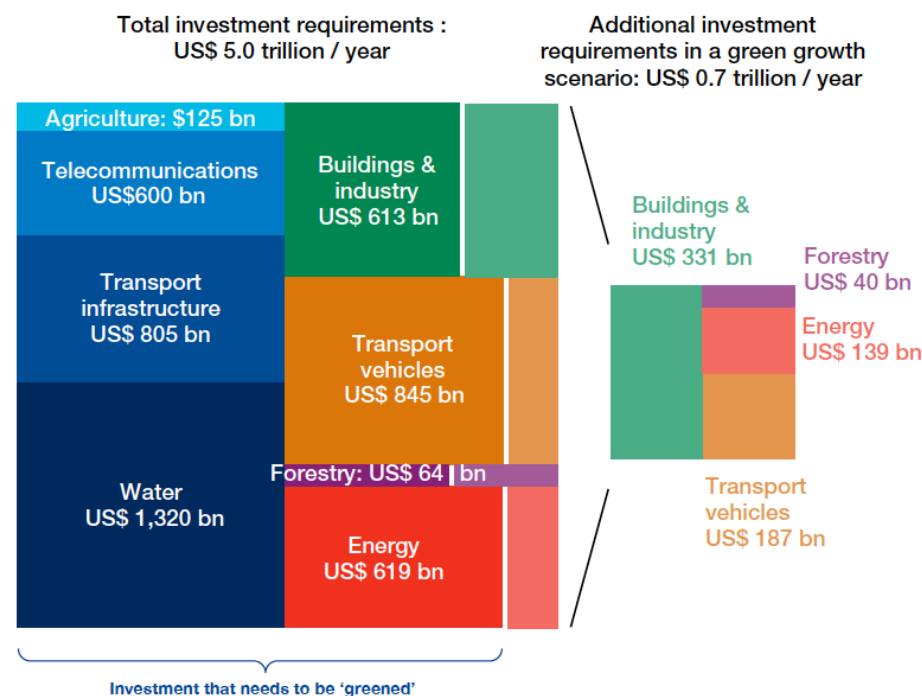
既定路線で必要とされる投資

5兆ドル／年（グリーン化が必要）

追加で必要とされる投資

7000億ドル／年

Figure iii: Total estimated investment requirements under business as usual and estimated additional costs under a 2°C scenario



Sources: OECD^{2,3}, IEA⁴, Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO)⁵, United Nations Environment Programme (UNEP)⁶

Note: All data converted to \$ 2010 equivalents

(出所) World Economic Forum (2013) *The Green Investment Report: The ways and means to unlock private finance for green growth*. World Economic Forum.



サイクル：長く続く制度のために

論点

- サイクルの長さ
 - ・ 5年か、10年か
- 緩和のみ？適応・資金？
 - ・ 適応については緩和とは違うタイムスパンで行うか
 - ・ サイクルの中で実施すること（ex post reviewなど）も緩和とその他で違えるのか

各国の立場 ※網羅的ではない

- ◇ 島嶼国、アメリカ：5年サイクル
- ◇ 日本、韓国、（EU）：10年サイクル
- ◇ ブラジル、南アフリカ：5年＋5年サイクル
- ◇ サウジアラビア：サイクルはそもそも議題ではないはず
- ◇ AILAC：適応についても、緩和とは違う形でサイクルを

交渉テキスト：第162～177段落

INDCについて

– どう見ていくのか



INDCのフォロー

■ どこで見れるか？

- UNFCCC INDC Portal （公式サイト）
http://unfccc.int/focus/indc_portal/items/8766.php
- WRI CAIT Pledge Map
<http://cait.wri.org/pledges>
※近日公開予定。

■ 判断の参考

- Climate Action Tracker
<http://www.climateactiontracker.org>
- Climate Equity Reference Calculator
<http://www.gdrights.org/calculator/>
※ただし、国内・海外削減を合わせた数字が出る。

■ CAN-Japan や WWFも・・・？